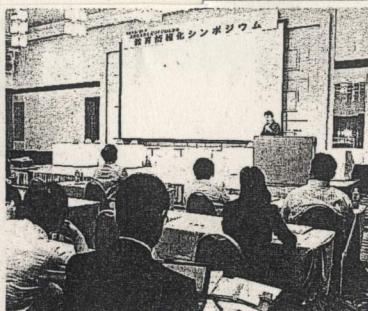


## 教育の情報化の 最新動向を報告

長野で初のシンポ

総務省信越総合通信局と信  
越情報通信懇談会は16日、「次



教育情報化について専門家  
らが講演したシンポジウム

世代を育む街づくりのための「教育情報化シンポジウム」を長野市で開いた。情報通信技術（ICT）を活用した授業など教育の情報化について最新の動向を考えようと初めて開催。専門家らが講演し、民間企業の動きや教育現場での実証研究について話した。

慶應大学院メディアデザイン研究科の中村伊知哉教授

は、おもちゃメーカーが相次いで幼児向けに学習できるタブレット端末を配り、画像や動画を活用した授業をすることで「児童の関心が深まり、児童同士の考え方を端末で共有して互いに高め合う学びができる」と紹介した。

県内の教員や自治体の教育委員会職員ら約150人が参加。県教委の菅沼尚教育次長によるパネル討論などもあつた。

ブレット端末を発売したり、教科書会社がデジタル教科書を開発したりと、企業の動きが活発化している」と説明。「ICTが教育に効果的ではないかとの空気が国内に広がっている」と述べた。

文部科学省の豊嶋基暢・情

報教育課長は、2011～13

年度に長野市塙崎小学校を含

む全国の小中学校など20校で

実施したICT教育の実証研

究を報告。児童にタブレット

端末を配り、画像や動画を活

用した授業をすることで「児

童の関心が深まり、児童同士

の考え方を端末で共有して互いに

高め合う学びができる」と紹

介した。